

孔番 : H27-B-2

深度 36.00m ~ 54.00m



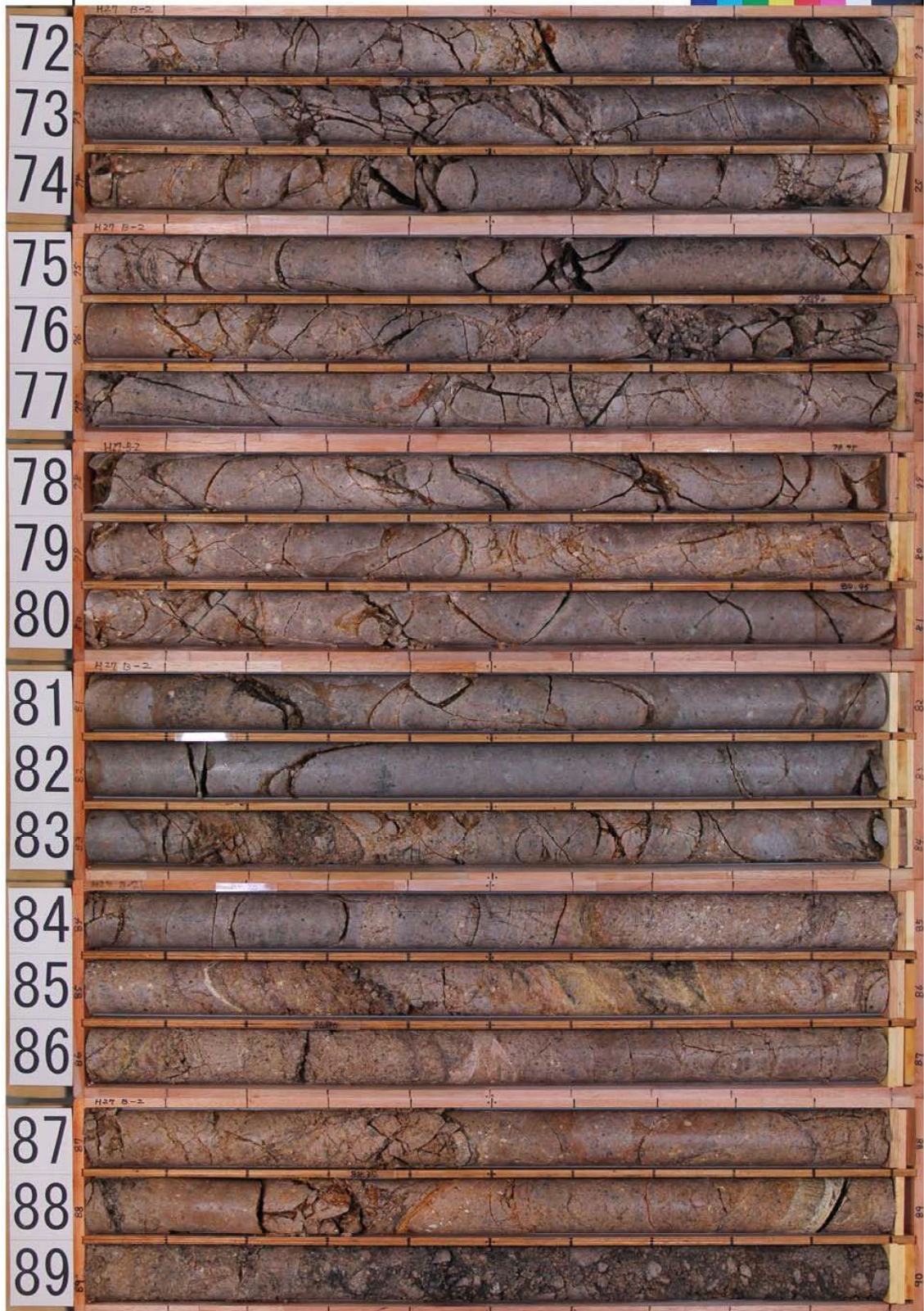
孔番 : H27-B-2

深度 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H27-B-2

深度 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H27-B-2

深度 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H27-B-2

深度 108.00m ~ 126.00m



孔番 : H27-B-2

深度 126.00m ~ 144.00m



孔番 : H27-B-2

深度 144.00m ~ 160.00m



余白

H24-B14-2

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																				
				盛土	明褐					5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																									
		2.35	6.66	礫管砂	褐灰					6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~8.83m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解片を含む。 6.82~8.00m: 細~粗粒砂からなり、 7.43m以深ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗閃石、グラナイト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.00m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																									
		1.13	8.39	砂混じり有機質シルト	灰					8.00~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。																									
		0.82	8.83	有機物混じり砂	黒褐					8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて斜方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。 8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~9.26m: 有機物に富み、一部未分解の礫種が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解礫も少量を含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~5mmの花崗閃岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71m: 径7cmの玉石を含む。																									
		0.31	9.54	砂礫	黄																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														() 値	() 図																
				砂礫	黄 赤褐 黄					10.70~10.72m: 細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。																					
		-0.80	11.12							11.12~12.04m: 硬凝じり砂。径2~5mmの石英の角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂が主で、少量のシルトを含まれる。																					
		-1.18	11.66		灰白					11.40~11.42m: 幅10mmの灰白色シルトを挟む。 11.53~11.55m: 幅15mmの灰白色シルトを挟む。 11.66~11.79m: スライム。黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。																					
		-1.28	11.79		コア欠 硬凝じり砂																										
		-1.45	12.04		灰					12.04~12.69m: 有機物混じり砂。細~中砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を呈する。 12.13m付近, 有機質シルトの薄層を挟む。 12.37~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。																					
		-1.91	12.69		オリーブ黒					12.65~12.67m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.69~13.09m: 有機物混じり砂質シルト。中粒砂からなり、全体に有機物が混じる。 12.70~12.73m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.76~12.85m: 径2~4cmの花崗岩の亜角礫を含む。 12.85~13.09m: 砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。 12.80m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。 13.09~13.80m: シルト混じり砂。細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。 13.17~13.60mはシルト~粘土分を含む。 13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。 13.40m付近, 径5~7mmの石英礫を約5%含む。 13.80~16.24m: 砂礫。径2~40mm (最大径330mm) の亜角~亜円礫を主とし、所々、径40~70mmの内~亜円礫を含む。礫は花崗岩が主体で、礫率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。																					
		-2.20	13.09		灰																										
		-2.70	13.80		シルト混じり砂	浅黄																									
				砂礫	暗褐																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)									
															N 値	図																				
				砂礫	暗褐色						15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。 15.42~15.50m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。 15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。 16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は附着しており、傾斜45°程度を示す。																									
				褐灰							16.24~16.65m: 花崗斑岩母岩は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石基は優白色である。 16.24~16.65m: 油蝕化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く紫色を帯びた灰白色を示す。局所的にやや強い所があるが、全体的に針貫入可能である。 16.24~16.94m: 傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下に比べて原岩組織を残す。 16.94~18.04m: 割れ目が不明瞭となる。																									
				灰口							17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂凝じりシルト状に崩せる。																									
				花崗斑岩							18.04~18.66m: 割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの塊状に残す。軟質部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。 18.33~18.37m: 強く変質する。上傾40°、下傾は不明瞭である。																									
				明褐色							18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。 19.00~19.25m, 19.55~19.89m: 網目状の変質粘土は淡黄褐色を示す。																									
				灰白							19.19~19.50m: 傾斜75°で湾曲して、幅1~2mmのシルト・砂凝じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を示す。																									
				Dg							19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		室内試験 (孔内水基色)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																											
														()	()																																					
		21	花崗斑岩 明褐灰	Dg	灰白	Eg	Vg	dg	δ	3	20.05~20.29m: 風化・変質作用により、全体I-軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.21~20.29m間は変質が著しく、塊状じりシルト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と境される。 20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。 20.49~20.84m: 傾斜24~69°で粗5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を3条程度挟む。	0 50 100	D'	標準貫入試験 (N値~深度) 図																																						
		21												Vg Vg	dg																γ	2	21.00~21.20m: 全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短柱状を呈する。	0 50 100	D'																	
		22																																																		
		22												Dg Dg	dg																δ	3	22.42~22.63m: 微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに劣化する。 22.63~23.71m: 割れ目が多く、径1~3cmの角礫状を呈する。	0 50 100	D'																	
		23																																																		
		24												Vg Dg	dg																γ	2	24.48~25.88m: 径0.5~3cm程度の礫状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	0 50 100	D'																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															N	値											
		31	花崗斑岩	明褐灰			Cg	Vg	cg	δ	3		CL'														
							IVg	Bg	bg																		
							Cg	IVg																			
								IIIg	γ																		
								Bg	IVg																		
								IIIg																			
								IVg																			
							Cg	Vg	cg	δ	2		CM'														
								Bg	IVg	γ																	
								Cg	Vg	cg	δ																
								Bg	IVg																		
								Cg	Vg	cg	δ																
								Bg	IVg																		
								Cg	Vg	cg	γ																
								Bg	IVg																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原付置試験 (孔内水圧感応)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N)	(m)																
		36		花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	γ	2			35.14~35.74m: 割れ目が不規則網目状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。 35.20~35.50m: 不規則に劣化部が分布し、コアは砂礫・細片状を呈する。	0	CM	0	0															
		Dg				Vg	cg	δ	3	35.59m: 傾斜50°で幅1~2mmの黄褐~黄灰色粘土凝り砂を挟む。下層部にマンガン汚染が目立つ。 35.64~35.91m: 露出した網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。 35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染が認められる。	9	0																			
																													IVg	γ	2
					Cg								Vg	cg	δ	3															
		IVg				bg	γ	2	37.20m: 岩片に灰白色シルトが付着する。	9	0																				
												Dg																	Vg	cg	δ
					Cg								Vg	cg	δ	3															
		Es				Vg	dg	4	●38.10~38.27m: 破砕部粘土凝り礫状部 (H)	9	0																				
												Dg																	Vg	cg	δ
					Dg								Vg	cg	δ	3															
		Cg				IVg	cg	γ	2	39.21~40.13m: 割れ目面の多くは黄褐色化する。	9																				
												Dg																	Vg	δ	3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N値~深度) 図	(N) 値																	
		41	花崗斑岩	明徳灰	Cg			γ	2		40.25~40.31m: 変質部。上端40°, 下端50°で斜交する。石英粒の粗砂~細砂を含む灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリブ灰色を呈する。	5 [0]																					
					Vg																												
					Dg	cg			δ	3																							
					Bg	ivg							41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	10 [10]																			
					Cg	Vg							41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。																				
					Bg	ivg			bg		2																						
		42		花崗斑岩	にこい襦	Cg	Vg			γ	2																						
						Bg	ivg			cg				42.13~42.71m: 風化・変質の影響を強く受け、コアは軟質となる。特に42.37~42.47m間は上下端傾斜45°の割れ目で壊され、原岩組織や割れ目が消滅する。含まれる礫に定向配列は見られない。	5 [0]																		
						Fg	ivg			dg	δ	3																					
					Cg	Vg																											
					Dg	ivg			cg				43.00~43.51m: 不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは褐灰~オリブ灰色を帯びる。																				
					Cg	Vg																											
		43	花崗斑岩	灰黄褐	Dg	ivg		cg																									
					Cg	Vg							43.51~43.81m: 強く風化・変質し、一部に硬さ「D」の岩片を残すが、多くは斜貫入可能である。上端には傾斜50°で幅3~10mmの明赤灰色の砂凝りシルトが分布する。	5 [0]																			
					Bg	ivg			cg				43.81~44.09m: 上位と比べて風化・変質の程度は強いが、傾斜80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目が発達し、コアは脆弱である。																				
				Cg	Vg							44.09~44.25m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜90°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細礫凝り粘土を挟み、周囲には白雲母が露出する。	5 [0]																				
				Dg	ivg			cg																									
				Cg	Vg							44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、礫~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質となる。																					
		44	花崗斑岩	褐灰	Dg	ivg		cg																									
					Cg	Vg																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																										
															N 値	(N 値 ~ 深度)																																				
				花崗斑岩	褐灰						45.00~45.20m: 風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。		CL'																																							
											Eg																	Vlg	dg	δ	3	45.20~45.90m: 傾斜50°~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、岩片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐色砂状物質を挟在することが多い。	17 (12)	0.00	0M'																	
											Bg																	Nlg			γ	2																				
											Cg																																									
46											Dg																	vg	cg	δ	3	45.90~47.37m: 風化・変質やや強く受け、一部の割れ目や原岩組織はやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で線状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟在する。 46.07m: 傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト層を挟む。 46.10~46.17m: マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは短い。 46.20m: 傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂泥じりシルトを挟む。	3 (0)	0.00																		
											Cg																	Nlg				2	46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広がる。 47.03m: 傾斜34°で幅3mmの灰白色砂泥じりシルトを挟む。																			
											Dg																	Vlg	dg			3	●47.37~47.40m: 破砕部 粘土泥じり礫状部 (Hj) 上端40°, 下端45°でともに凹凸して連続。径2~3mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。 47.40~49.24m: 全体に変質し、シルト泥じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、細粒に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。 47.53m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。 47.70~48.87m: 傾斜80°~90°の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。 48.09m: 傾斜72°で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。 48.09~48.86m: 線状に変質粘土層が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	9 (1)	0.00																	
											Cg																	Nlg				2																				
											Dg																	Vlg	cg			γ	3																			
											Eg																	Vlg	dg			δ	3																			
											Dg																	Vlg	cg			γ	3																			
											Eg																	Vlg	cg			δ	3																			
											Dg																	Vlg	cg			γ	2																			
											Eg																	Vlg	dg			δ	3	●49.24~49.55m: 破砕部 49.24~49.26m: 礫泥じり粘土状部 (Hc 2) 上端20°で凹凸する。下端35°。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に推移する。幅15~25mm。 49.26~49.42m: 粘土泥じり砂礫状部 (Hj) 上端35°で直線的に連続。下端50°で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細脈が傾斜40~60°で分布する。変質が進み、暗灰色を呈する。	2 (0)	0.00																
											Cg																	Vlg	cg			γ	2																			
											49.42~49.45m: 粘土質礫状部 (Hc) 上端50°で波打って、下端20°で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m: 粘土泥じり礫状部 (Hj) 上端20°, 下端35°でともに直線的に連続。径5~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土脈が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m: 砂泥じり粘土状部 (Hc 2) 傾斜45°で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。 49.55~49.64m: 風化・変質により、コア表面が粗く、脆弱である。 49.64~50.50m: 傾斜40°~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原付置試験 (孔内水基色)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															N	値																
		28.65	50.50	花崗斑岩	褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2			CL'																			
51		28.31	51.43	コア欠如							51.50~51.43m: コア欠如																					
52				褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3		51.43~52.36m: 傾斜55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、細片~岩片状を呈する。全体にやや変質し、長石類は褐灰色化し、灰色を帯びる。																					
				褐灰	Cg				γ		51.89~51.92m: 傾斜40°で幅17mmの緑灰色シルト・細砂混じり砂を挟む。																					
				褐灰	Dg					2	52.36~52.92m: 傾斜25~50°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。																					
				褐灰	Dg					2	52.50~52.52m: 傾斜20°で幅10~20mmの暗灰色の微細じり粘土を挟む。スライムの可能性が高い。																					
53				花崗斑岩	明褐灰	Ng	Vg	cg	δ	3	52.92~53.33m: 上位と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や原岩組織が不明瞭である。																					
				明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3		53.33~53.35m: 上下端15°程度で幅20~25mmの変質部。上部は幅5~15mmの粘土質砂状、下部は幅5~15mmの砂・細砂混じり粘土状を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は細目状に分布し、上端境界・下端境界は不明瞭である。原岩組織が認められ、せん断構造・変形構造は認められない。																					
				褐灰	Bg	Vg	cg	β	2		53.35~53.82m: 傾斜25°及び45°の割れ目が5~20cm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。																					
				明赤灰	Ng	Vg	cg	γ	2		53.82~54.48m: 傾斜30~50°及び80°の密着割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。																					
				明赤灰	Cg				γ		54.48~55.40m: 上位に比べて割れ目沿いの褐色化が見られる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密集し亀甲状を呈する。割れ目沿って風化が進む。																					

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%)	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 付	試験			原 付 置 試 験 (孔 内 水 試 験)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ / ビ ット	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
														(N 値 ~ 深 度) 図	(N 値 ~ 深 度) 図	(N 値 ~ 深 度) 図														
		56	花崗斑岩	明赤灰	Cg	Vg	cg	γ	2	55.40~55.84m: 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。一部やや硬質の岩片が残留する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目も、上下位に比べて多くなり、亀甲状を呈する。全体にマンガン汚染が見られる。	→ ← Q D R [%]	CL'	0	0	0															
		57								赤灰																			Bg	IVg
		58		明褐灰	Dg	Vg	cg	3	57.42~57.68m: 変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。 57.68m: 割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが密集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。 57.68~58.00m: 上位に比べて変質は軽微となる。 58.00~58.50m: 上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。			CL'	0	0	0															
		59							赤灰	Dg																			Vg	cg
				Cg	Vg		2	59.25~59.55m: 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び暗褐色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.62mでは割れ目沿いに褐色化し、褐色鉱物脈が付着。または残存する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。				CL'	0	0	0															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															N	値																
		35.83		花崗斑岩	赤灰	Cg	γ	Z			60.65~150.00m, アブライト																					
	61	60.65		明黄褐	Eg	δ	4				●60.85~61.12m: 破碎部粘土混じり角礫状部 (H) 上傾40°, 下傾50° ともに直線的に連続。径5~30mmの硬さ「G」の角礫からなる。明黄褐~極灰色を呈する。 61.12~63.47m: 傾斜30~40° 及び70° の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が見られ、一部亀甲状を呈する。連続する割れ目は全て酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部が見られる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。																					
	62			ナリシムハア	褐灰	Ug	δ	2			62.97~63.06m: 割れ目が密集し脆弱である。下端には傾斜45° で幅1~2mの極灰色粘土を挟む。																					
	63				褐灰	Cg	γ				63.47~64.15m: 幅5~10cmの割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに細片化が認められる。																					
	64				褐灰	Bg	β				64.15~64.82m: 傾斜40~50° の割れ目が3~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打診でやや鈍い音を発する。 64.26~64.51m: 上傾45°, 下傾60° 程度で壊されて変質が進む。																					
					褐灰	Cg	γ	3			64.82~65.32m: 傾斜30~45° と70° の割れ目が1~3cm間隔で発達する。低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を伴う。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														N 値	図													
				マンガン	褐灰	Cg	Vg	bg	γ	2																		
					明褐灰	Eg	Vg	dg		3	65.32m: 傾斜45° でフィルム状~幅5mmの灰白色砂泥じり粘土を挟む。																	
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2	65.32~65.86m: 風化・変質し、軟質化する。割れ目沿いに脱色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物間隙部も褐色化する。																	
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	65.67~65.86m: コア全体が脱色し、灰白~淡黄色を呈する。																	
					明褐灰	Cg	IVg			2	65.86m: 傾斜34° で幅1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。																	
					明褐灰	Cg	IVg			2	65.86~66.06m: 不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。																	
					明褐灰	IIIg	bg	γ		2	66.06~67.39m: 傾斜30~50° の割れ目が2~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65° 以上の高角度割れ目が発達する。																	
					褐灰	Bg				2	66.06~66.81m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。																	
					褐灰	Bg	IVg			2	66.86m: 傾斜45° で幅15mmが脱色し、軟質化する。																	
					褐灰	Bg	IVg			2	66.90m: 傾斜45° で幅1mmの淡黄褐色砂泥じりシルトを挟む。																	
					黄灰	Dg	VIg	cg	δ	3	67.38~67.51m: 上端35°、下端20° で囲まれ、風化・変質が強く受け、指圧でほくせるほど軟質である。																	
					黄灰	Dg	VIg	cg	δ	3	67.51~68.23m: 傾斜50~70° の割れ目が2~6cm間隔で交錯し、細片状を呈する。また、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細粒化する。																	
					黄灰	Dg	VIg	cg	δ	3	68.23~68.63m: 上端50° の割れ目、下端はコアの昇降部で不明であるが、この間、風化・変質が強い。層岩組織は不明瞭となるが、割れ目跡は残る。含まれる礫に定向配列は見られない。																	
					黄灰	Eg	VIg	dg		3	68.23~68.33m: 細目状に変質粘土層が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。																	
					黄灰	Cg	IVg	bg	γ	2	68.47~68.63m: 土砂~角礫状を呈する。マンガン汚染で軟化するが、礫に定向配列は見られない。																	
					黄灰	Cg	IVg	bg	γ	2	68.48~68.57m: コアはオリブ灰色を帯びる。																	
					黄灰	Dg	VIg	cg	δ	3	68.63~70.03m: 傾斜40~50° 程度の割れ目及び面状割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化し、細粒化~細片化する。潜在割れ目はハンマーの打撃で分離しやすい。																	
					褐灰	Dg	VIg	cg	δ	3	68.93~69.00m, 69.19~69.25m間は、上下位と比べて強く風化・変質し、コアの一部は指圧で崩せる。																	
					褐灰	Dg	VIg	cg	δ	3	69.19~69.22m: 上端50°、下端45° で幅30mmの明黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端に幅1mm程度の灰白色砂泥じりシルトを伴う。																	
					褐灰	Dg	VIg	cg	δ	3	69.42m, 69.72m, 69.80m: 傾斜40~45° で幅0.3~1mmの細オリブ灰色粘土を挟み、白雲母を伴う。																	
					褐灰	Dg	VIg	cg	δ	3	69.96~70.00m: 傾斜75° 以上の高角度変質部で指圧で容易に崩せる。全体にマンガンを伴う。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
															(N値 ~ 深度) 図																												
71				褐灰	Dg	Vg	γ	δ	3		70.03~70.33m: 割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に灰白色粘土細脈が分布し、やや軟質となる。一部は指圧で崩せる。 70.03~70.14m: マンガンが濃集する。 70.16m: 傾斜70° の割れ目を強が横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 70.33~70.88m: 傾斜40° 程度の割れ目が直線1.0~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところでは変質がやや進む。 70.88~71.05m: 上位と比べて風化・変質し、軟質化する。 70.88~70.93m: 上端はコア昇降により不明、下端は傾斜45° で変質で指圧で変形するほど軟質化し、割れ目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。 71.32~71.79m: 上下位に比べて変質が進み、コアの表面は粗い。																																
72				マンモライト	Dg	Vg	γ	δ	3		71.79~72.14m: 傾斜40~60° の割れ目が交錯し、一部細片状となる。割れ目沿いに細粒化し、酸化・マンガン汚染も認められる。 72.14m: 傾斜40° で幅1~2mmの灰~緑灰色砂泥シリントを挟み、白雲母を伴う。 72.14~72.90m: 傾斜20~30° の割れ目が1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化する。 72.70~73.00m: 傾斜80~90° で幅1~2mmの石英脈を挟む。 72.90~73.53m: 傾斜50° 及び70° 以上の高角度割れ目が5~10cm間隔で発達する。 73.00~73.13m: やや変質し、褐色化する。 73.13m: 傾斜40° の割れ目は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。																																
73				明緑灰	Dg	Vg	γ	δ	3		73.53~73.74m: 傾斜40° の割れ目が1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに変質する。割れ目はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。 73.62~73.63m: 傾斜40° で幅10mm程度が変質により緑灰色を帯びる。褐色鉱物は褐色化し、全体に軟質化する。 73.74~74.95m: 傾斜40~50° の割れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目面はわずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮である。																																
74					Dg	Vg	γ	δ	3																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
															0	10	20	30	40	50													
		76		明礬灰	Bg IVg cg	IVg	cg	γ			75.24~75.91m: 傾斜40°及び75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。 75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。	14 [14]																					
		77		明礬灰	IVg IIIg IVg IIIg	IVg					75.91~77.91m: 傾斜40~60°の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。 76.77m以深は、潜在割れ目が少なくなる。 76.65m: 傾斜50°で幅3~5mmの石英脈を挟む。	14 [38]																					
		78		明礬灰	Bg IIg	Bg	IIg	β			77.38m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が露出して露出する。 77.91~78.25m: 傾斜40~60°の他、不規則な高角度割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。	29 [53]																					
		79		明礬灰	IVg Vg IVg	IVg					78.25~79.14m: 傾斜20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のみ合せが悪い。 79.14~79.79m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに脱色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。 79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。	10 [10]																					
				明礬灰	Dg Bg IVg Bg	Dg					79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。 79.77m: 傾斜40°、幅9mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に劣化するが、硬質である。 79.79~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。	3 [3]																					

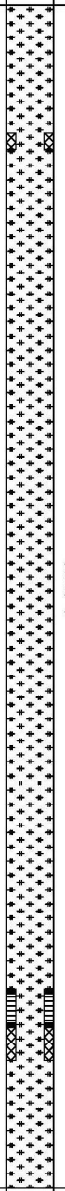
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧感応)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N	値																	
		81		褐灰			IVg				80.63~81.47m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が発達する。割れ目面は凹凸し、風化・変質、挟持物は認められない。																						
		82		ブロンズ			Bg IIg bg β	2			81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mで黄鉄鉱が付着する。 81.40~81.76m: 傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのなかみが多い。 81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。 81.99m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。 82.13~83.59m: 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目面は黄鉄鉱~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに着色する。 82.33m, 82.36m: 傾斜40°で幅1~2mの石英脈を挟む。																						
		83		灰白			IIg				82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が密生し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。																						
		84		褐灰			IVg				83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの着色が認められるが、より明確に認められる。 83.88~84.54m: 上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。 84.16~84.45m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。 84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の塊晶が晶出する。 84.54~85.14m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。 84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石脈を伴う。 84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟弱となる。 84.91~84.94m: 傾斜45°で幅25mm程度が変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原付置試験 (孔内水圧感応)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														N	値													
		86	[柱状図: 褐色]	[岩種: 褐色]	[色調: 褐色]	[硬軟: 硬]	[コア形状: 円筒]	[割れ目の状態: 割れ目]	[風化: 3]	[変質: 2]	[記号: 褐色]	[採取率: 100%]	[岩級: CL']	0	10		[水位:]	[原付置:]	[室内:]	[掘進:]	[速度:]	[孔径:]	[コア:]	[給圧:]	[回転:]	[送水:]	[排水:]	
		87												II g	85.06~89.74m: 傾斜30~40°の割れ目が0.5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。 85.14~85.64m: 割れ目面の裏面は認められない。 85.28m: 傾斜35°で幅1.5mmの石英脈を挟む。 85.59~86.28m: 傾斜60~70°の密着割れ目が発達し、それに沿って褐色する。一部は開口し、細片化を伴う。 85.96~87.50m: 傾斜80°以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。 86.50~86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。	33												100
		88												III g	87.61m以降、傾斜40~60°の割れ目が多くなる。 87.61~88.31m: 傾斜40~60°の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って褐色する。割れ目面はオリブ灰色を帯びる。 87.73m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。 88.22m: 傾斜43°の割れ目は暗オリーブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。 88.22~88.30m: 微細な有色鉱物を多く含む、コアは暗色を帯びる。	34												100
		89												IV g	88.90~89.09m: 傾斜45°程度の割れ目が0.5~30cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに褐色が認められる。 89.09m, 89.42m, 89.55m: 傾斜43~50°の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。 89.74~90.56m: 傾斜35~55°の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。	37												100

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原付置試験 (孔内水基色)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)															
											90.08~90.56m: 傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。				0	50															
		91					IVg				90.44m: 傾斜45°で幅3~8mmの石英脈を挟む。	11 [11]																			
							Vg				91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。																				
							IVg				91.13m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	9 [9]																			
		92					Bg	bg			91.48~91.63m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。																				
							Bg			β	91.53~93.00m: 傾斜85~90°で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。																				
							IIIg				92.13m: 傾斜40°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	16 [16]																			
		93					IVg				93.64m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	17 [17]																			
							Cg	Vg	cg		94.10~94.63m: 傾斜10~45°程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。																				
		94					Bg	IVg	bg		94.24m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	17 [17]																			
							Bg	IVg	bg		94.34m, 94.37m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	18 [18]																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原付置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																
															N	値	0	10	20												30	40	50																																																																																																																																																																																																													
		96	[Patterned Column]	不明	褐灰	Bg	IVg	bg			95.07~96.03m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	0																																																																																																																																																																																																																																		
		96									不明																				褐灰	Bg	Vg	og	95.34~95.43m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	5	0																																																																																																																																																																																																									
		96																																	不明																						褐灰	Bg	Vg	og	95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。	5	0																																																																																																																																																																															
		96																																																											不明																						褐灰	Bg	Vg	og	96.30~96.54m: 傾斜45°程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。	6	0																																																																																																																																																					
		96																																																																																					不明																						褐灰	Bg	Vg	og	96.44~96.64m, 96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。	6	0																																																																																																																											
		96																																																																																																															不明																						褐灰	Bg	Vg	og	96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	6	0																																																																																																	
		96																																																																																																																																									不明																						褐灰	Bg	Vg	og	97.50~98.06m: 傾斜45~70°の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	7	0																																																																							
		96																																																																																																																																																																			不明																						褐灰	Bg	Vg	og	97.83~97.86m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	7	0																																													
		96																																																																																																																																																																																													不明																						褐灰	Bg	Vg	og	98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	8	0																			
		96																																																																																																																																																																																																																							不明																					
		96	不明	褐灰	Bg	Vg	og	99.94m: 傾斜25°で幅5mmの橙色のカリ長石が脈状に分布する。	9	0																																																																																																																																																																																																																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															N 値	図													
		101		明徳灰	Bg Vg bg	2																							
					Dg Vg dg	3					100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状~土砂状を呈する。																		
					Bg Vg bg	2																							
					Dg Vg dg	3					100.75~101.03m: 変質が明瞭で、やや軟質である。																		
					Dg Vg dg	3					100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。																		
					Cg Vg bg	2																							
					Es Vg ds	3					●101.47~101.52m: 礫砂部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (地)																		
					Vg						傾斜25°で直線的に連続。下部に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂状部 (地)																		
					Bg Vg bg	2					上部25°、下部20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。 102.11~103.92m: 径1~3mm程度のかり長石の大型岩片が目立つ。																		
					Bg Vg bg	2																							
					IVg																								
					Cg						102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。																		
					og																								
					Dg						102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、褐色に変質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土多量に伴う。																		
					Vg						103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の岩片が目立つ。 103.11~103.93m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。																		
					Cg																								
					Bg						103.93~104.61m: 潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。																		
					IVg																								
					Bg						104.44~105.54m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。 104.47~104.65m: 径3~10mmの褐色のかり長石の岩片が目立つ。																		
					Vg																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D m L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原付置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 送 (rpm) / 圧 (MPa)	回 送 (MPa) / 転 水 (MPa)	送 水量 (L / 分)	排 水量 (L / 分)			
															N 値	図													
		106		褐 灰	Bg	Vg	bg	2			● 105.54 ~ 106.61m : 破砕部 シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端 45°, 下端 45° でともに直線的 に連続。径 30mm 以下の岩片主体で灰 白色粘土が脈状に分布する。変質が 著しく、ブリーチング灰色を呈す。 105.61 ~ 107.12m : 傾斜 30 ~ 50° の割 れ目が多く、主に岩片状～礫状を呈 する。	0																	
		107																											
		108			Dg	Vg	dg	3			106.48 ~ 106.49m : 傾斜 15°, 傾斜 50° の割れ目に幅 3 ~ 6mm の暗灰色の 粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。 106.68 ~ 106.69m : 傾斜 55° の割れ目 に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。 106.78 ~ 106.83m : 傾斜 15° のドラ イト脈を挟む。やや変質が顕著で方 解石の脈が見られる。アブライト との境界は明瞭である。アブライト よりは軟質である。高角度の割れ目 にも貫入している。 106.78 ~ 106.81m : 傾斜 50° のドラ イトの変質部で、暗灰色の粘土質 砂・細礫を呈する。 106.91 ~ 106.92m : 不規則な形状のドラ イト脈で、106.83m のドライト 脈と高角度割れ目の細脈で連続する。 107.12 ~ 107.29m : 傾斜 45 ~ 90° の湾 曲した割れ目が多く、角礫状を呈す る。高角度の割れ目沿いに変質が著 み、シルト質砂礫状を呈する。 107.29 ~ 107.45m : 砂～細礫状を呈し 、灰白色粘土脈が網目状に分布する。 107.30 ~ 107.31m : 傾斜 55° で幅 3 ~ 9 mm の暗灰色変質部で砂状を呈す。 幅 1mm 以下の暗灰色粘土を不連続に挟 む。変質部に含まれる岩片に岩屑混 列は見られない、暗灰色粘土は分岐 し、黄鉄鉱を伴う。 107.45 ~ 108.11m : 多方向の割れ目 が多く、角礫状を呈する。割れ目沿 いに棕色変質する。 107.61 ~ 108.11m : 高角度の割れ目沿 いに変質が著み、シルト質砂礫状を 呈する。 108.20m : 傾斜 57° で幅 1 ~ 2mm の灰白 色の方解石脈を挟む。 108.33 ~ 109.16m : 全体に変質を受け 、褐灰～明褐色を呈する。原岩組 織はやや不明瞭である。	0																	
		109																			Bg	Vg	dg	2			108.94m : 傾斜 50° で幅 0 ~ 8mm の方解 石脈を挟む。 ● 109.16 ~ 109.46m : 破砕部 109.16 ~ 109.19m : 細礫混じり粘土状 部 (Hc-2) 傾斜 75°。明褐色を呈する。幅 2 ~ 10mm。 109.18 ~ 109.30m : 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜 75° で直線的に連続。径 2 ~ 30mm の礫主体で細粒部が分布する。変質 が著しく、明褐色を呈する。幅 60m m。 109.30 ~ 109.32m : 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端 75°, 下端 90°。明褐色を呈 する。幅 10 ~ 20mm。 109.32 ~ 109.46m : 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端 80° でやや破打って、下端 80° で湾曲して連続。下端には幅 1mm の白 色粘土を伴う。径 2 ~ 30mm の礫主体で 細粒部が分布する。明褐色を呈す る。幅 60mm 程度。 109.46 ~ 109.70m : 破砕部の下端側は 変質を受け、にぶい棕色を呈する。 109.46 ~ 112.49m : 傾斜 30 ~ 50° の割 れ目が多く、岩片状～細礫状を呈す る。 109.84m : 傾斜 70° で幅 1mm の白色粘 土を挟む。	0	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															(N値~深度) 図	N 値																		
											110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。																							
											110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。 110.95~111.16m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。礫状~細礫状コアからなり、フィルム状の白色粘土が網目状に分布する。																							
											111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網目状に分布する。 111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂泥じり粘土を挟む。																							
											112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が20mm~2cm間隔で密集し、変質する。																							
											113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。 113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。 113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで高径状が晶出する。																							
											114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。 114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原付置試験 (孔内水圧感)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															N	値	0	10	20												30	40	50
			[Dotted Pattern]				Bg				115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	7 [0]																					
								Cg																									
								Vg																									
116												116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。	9 [0]																				
								IVg				117.00~117.30m: 径5~10mmの橙色のかり長石、淡褐色の長石の結晶が目立つ。																					
117											117.37~117.59m: 割れ目が多く、岩片状→塊状を呈する。 117.48m: 傾斜45°, 幅2~4mmで黄鉄鉱が露出する。燧石、刀形を伴う。	10 [0]																					
							Bg	IVg			117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状→細礫状を呈する。	7 [0]																					
118																																	
											118.83~118.92m: 主に細礫状を呈する。																						
119											119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	7 [0]																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															N	値									
		121					Bg																		
		122					Cg																		
		123					Bg																		
		124					Bg																		